

目次

はしがき

i

序章 日本史から裁判のあり方を学ぶ

i

第1章 上代司法と聖徳太子

■日本における「司法アクセス」の起源「十七条憲法」

7

1 上代の法と裁判

8

2 血塗られた時代

11

3 「法の支配」の起源としての「十七条憲法」

12

4 「十七条憲法」に規定されていた「司法へのアクセス」の保障

13

5 太子の基本思想と孤独感

17

【歴史の寄り道①】 歴史の中の「正義・司法へのアクセス」論

20

第2章

鎌倉司法と阿仏尼の思い

■「東の亀の鑑」と統治の真髄

- 1 阿仏尼の民事訴訟への希求 24
 - 2 裁判に向かう阿仏尼の『十六夜日記』 26
 - 3 鎌倉時代の司法制度 28
 - 4 北条時頼の諸国行脚 32
 - 5 日本中世の女性像 34
 - 6 「細川の荘」をめぐる裁判の行方 35
 - 7 中世の民事裁判と道理 38
 - 8 『太平記』が語る裁判官の姿 40
- 【歴史の寄り道②】 中世世界に観る「救済観」 42

第3章

「徳政」と乱世に生きる庶民の力

■中世庶民と法への思い

- 1 庶民と金銭債務 46
- 2 中世の高利貸し…土倉 47
- 3 「徳政」と「徳政令」 48
- 4 永仁の徳政令 50
- 5 永仁の徳政令の評価 51

第4章

中世の「庶民自治」と紛争解決

■中世における自治的紛争処理とその終焉

- | | | |
|-----------|------------------------|----|
| 6 | 「日本開闢以来土民蜂起……」 | 53 |
| 7 | 「天下一同徳政令」 | 55 |
| 8 | 徳政一揆の終焉と下剋上 | 57 |
| 【歴史の寄り道③】 | 「徳政」余談 | 59 |
| 1 | 中世庶民の生活 | 63 |
| 2 | 南山城における「コミュニティ」の形成 | 64 |
| 3 | 加賀における「コミュニティ」の形成 | 65 |
| 4 | 惣村の成立と自治 | 66 |
| 5 | 謙抑的な自力救済観と共生関係の回復 | 69 |
| 6 | 中世の町の自治 | 71 |
| 7 | 「分国法」による自力救済の禁止と裁判権の掌握 | 73 |
| 8 | 自力救済禁止の代償 | 77 |
| 9 | 庶民の「統治主体」化 | 78 |
| 【歴史の寄り道④】 | 甲賀郡中惣 | 80 |

第5章

江戸庶民の法と司法の見方

84

■明治近代司法の底流を見つめて

- 1 荻生徂徠の卓見 85
 - 2 朝日文左衛門の法感覚 86
 - 3 江戸の裁判…大岡越前と遠山金四郎 88
 - 4 徂徠と西鶴の著作に見る「江戸庶民金融の蟻地獄」 91
 - 5 中江藤樹と熊沢蕃山 93
 - 6 「三方一両損」から「四方よし（＝司法よし）」へ 95
- 【歴史の寄り道⑤】 江戸時代にも鉄火裁判 97

第6章

明治初期における「逝きし世の日本司法の面影」

100

■日本人が西欧法に出会う時

- 1 明治初期の裁判との出会い 101
 - 2 近代司法制度の形成 103
 - 3 裁判制度の産みの苦しみ 104
 - 4 司法院の最高機関としての大審院の設置 106
 - 5 現代司法の「内省的視座」を求めて 108
- 【歴史の寄り道⑥】 ある裁判所の風景 112

第7章

■初代司法卿、江藤新平の孤独な闘い……………114

■「国民のための司法」の濫觴……………

1 司法改革の「歲月」……………115

2 江藤の志……………117

3 「民の司直」への悲願……………117

4 近代的な司法制度確立指向の挫折……………120

【歴史の寄り道⑦】 日米内戦比較……………122

第8章

近代市民、福澤諭吉の司法観……………125

■明治期の司法と人材育成……………

1 「門閥制度は親の敵」……………126

2 福澤と陪審制……………127

3 福澤の訴訟観……………129

4 福澤と法学教育……………131

【歴史の寄り道⑧】 「独立自尊」と「良心教育」……………132

第9章

大津事件と児島惟謙……………136

■「司法権の独立」の確保とその限界……………

1 事件の勃発……………137

2	「護法の神」	139
3	政府の干渉と児島の奔走	
4	判決と事件の評価	142
	【歴史の寄り道⑨】 事件の後	144

第10章 足尾鉍毒事件と田中正造の孤独な闘い……………147

	■「国民の司法離れ」の深刻な一起源	
1	「辛酸佳境に入る」	148
2	「予は下野の百姓なり」	149
3	亡国の思念	150
4	選挙肢ではなかった民事訴訟	152
	【歴史の寄り道⑩】 民衆の視座から	154

第11章 原敬の司法観……………158

	■陪審裁判と市民参加	
1	「宝積」の精神	159
2	分家して、平民になる	160
3	原の陪審観	162
4	日本陪審制度の含意	165

第12章

詩人・宮澤賢治の訴訟観

■「ソシヨウ」は本当にツマラナイか？

- 1 感性の詩人 176
- 2 小作争議と小作調停法の制定 177
- 3 小作調停法とその影響 179
- 4 『雨ニモマケズ』と『どんぐりと山猫』 181
- 5 賢治の訴訟観 182
- 6 孤独な菩薩道 186

【歴史の寄り道⑫】 民事訴訟法学者、雄本朗造の場合

188

第13章

戦後司法改革の小史

■戦後民主司法は何を創り残したか？

- 1 戦後の司法改革 191
- 2 戦後における裁判所改革 195
- 3 いわゆる「司法の危機」と呼ばれた現象 198

190

- 5 暗殺 167
 - 6 陪審制度…権力に対する国民参加の橋頭堡
- 【歴史の寄り道⑪】 忘れてはいけない「大逆事件」 170
- 169

175

4 『司法制度改革審議会意見書』に至る道程

5 『司法制度改革審議会意見書』とその後 205

【歴史の寄り道^⑬】 三島由紀夫と家事調停 209

終章 民事裁判の近未来展望……………215

1 民事訴訟で扱うこと 216

2 「自分でできる納得民事裁判」の基本要素 218

3 民事訴訟における救済過程の課題 221

あとがき 235